



## コロナ後

公益財団法人日本植物調節剤研究協会 監事  
税理士法人駒井会計事務所 税理士  
大倉 祐介

コロナ前とコロナ後。3年前には存在しなかったこの言葉は、いまでは普通に通用する言葉となっています。

2019年に発生したとされる新型コロナウイルスは、2020年3月下旬頃より日本国内においても感染が急速に拡大し、4月には初めて新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が発出されました。この当時は、いまよりも分からないことが多く、大変不安な思いをしたことを昨日のこのように覚えております。

そのような中で、感染症は流行しているが、収束すればいままでの世界が戻ってくるのか、それともこれほどの感染症が流行してしまうと、もういままでの世界は戻ってこないのか、いろいろな思いが巡りました。その答えは、3年目に突入したいまなお出ていないように感じます。

心身ともに多くのマイナスの影響を受けている新型コロナウイルス感染症ではありますが、視点を変えて、貴重な経験をしていると考えてみました。罹患されて苦しい思いをされている方、お亡くなりになった方、日々の生活において大変な思いをされている方がいらっしゃる中で誤解がないようにしなければなりません、敢えて貴重な経験をしていると考えてみたわけです。

天然痘やスペインかぜなど、これまでもパンデミックは起こっていますが、それらはすべて歴史上の出来事です。それに対し、このたびの新型コロナウイルス感染症は、様々な困難をどう乗り越えていくかということを経験しています。これは、多くの人にとって一生に一度もないことなのではないかと思えます。この困難な状況乗り越えようと、私たちは生活様式や働き方を変えました。それも準備期間もない中で。

ここで、特に変化、普及したのものとしてテレワークとオンライン会議に注目してみました。

### 1. テレワーク

テレワークという言葉も、今般初めて耳にされた方も多かったのではないかと思います。しかしながら、テレワークという考え方はコロナ前から存在していました。テレワークは、多様な働き方の一つとしてワークライフバランスを推進

するために普及促進が図られていました。

また、東京都では2020年に開催される予定であったオリンピックに国内外から多くの観客、大会関係者が訪れるため、大変な交通混雑が予測されていました。道路、鉄道ともに交通量が大幅に増加することにより、物流や通勤に深刻な影響を及ぼすことが懸念されました。その対策の一つとしてテレワークが推奨されました。

オリンピックは1年間延期ののち無観客で開催されることになりましたが、皮肉にもテレワークはかなりのスピードで普及しました。もし、新型コロナウイルス感染症が発生することなく、当初の計画通りオリンピックが有観客で開催されていたとしたら、テレワークはいまほど普及しなかったのではないかと思います。

テレワークは、今後定着するかどうかは分かりませんが、子育てや介護を行ないながら仕事をする方など多様な働き方ができるのはいいことではないかと思います。

### 2. オンライン会議

オンライン会議も、かなりのスピードで普及しました。

また、これは会議に限らず、セミナーへの参加やオンラインツアーなど様々なことにも活用することができます。

実際に会ったり、その場所へ行かなければ得られないことはあるものの、場所の制限が取り払われることは、計り知れないメリットがあると思います。

当協会においても、多くの会議をオンライン会議により開催しています。

これらは、いずれは起こる変化であったかもしれませんが、このような困難な状況であるからこそその変化の速さとパワーに驚かされました。

変化することが難しいことも、もしかしたら、いまなら変わることができるのかもしれない。地球環境や私たちの健康にとって、より良い世界になるといいと思います。

私たちは、大変な思いをしたわけですから、これを活かさない手はないと思います。